

神戸・兵庫地域でのAIの ビジネス活用を推進

産総研人工知能技術コンソーシアム神戸支部WG 設立記念セミナーを開催



当商工会議所の協力のもと、国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能技術コンソーシアム(AITC)神戸支部ワーキンググループ(WG)が5月7日に設立された。

これを受けて、6月28日に次世代産業委員会とAITCとの共催で設立記念セミナーを開催した。

冒頭、同委員会の國井総一郎委員長は「深刻な人手不足が続く中、業務効率化や省力化に向けてAIをはじめとする先端技術の活用は必要不可欠。本日のセミナーが各社のAI活用のきっかけになって欲しい」と挨拶した。

セミナーでは、AITCの本村陽一会長が、人工知能技術の最新動向について講演。「現状は、すでにインターネット上にあるデータなどの分

析にAIが活用されているが、今後は企業などが持つ固有データにAIを導入することで、経営課題の解決につながる」と指摘。「AI活用事例を広く共有することが重要で、事例を参考にして活用の幅を広げること、さらなる社会実装につながる」と強調した。

次に、AI技術の活用事例として、ビッグデータから見込み顧客を発見する『ターゲット・ファインダー』、質問回答人工知能『ロアンナ』、AI対話型行動支援システム『みえちゃう!タッチラリー』、AIを活用したクラフトビールナビゲーションシステム『ビアナビ』を紹介した。

(株)大丸松坂屋百貨店大丸神戸店の今野剛営業企画マネジャーは、化粧品売場改装を機に発送したDMの顧

客抽出に『ターゲット・ファインダー』を活用した結果を紹介。「前年に自社で行った顧客抽出よりも高い購買率につながり、一定の有用性は確認できた。また、分析作業をツールが行うため、人為的な作業に比べると効率的に作業ができた」と報告があった。

その後、地元大学の取り組みとして、神戸大学と兵庫県立大学がAI活用で必要となる「データサイエンティスト」の育成に力を入れていくことが紹介された。

セミナー終了後の懇親会では、講師や参加者同士で積極的に情報交換が行われ、AIのビジネス活用における関心の高さがうかがえた。

今回は、10月7日に第1回例会を開催する。

6.24 ITを活用して儲けるための仕組みについて学ぶ



ITを導入することが目的ではなく、儲けるためにITを活用するため、NPO法人ヒューリット経営研究所ITコーディネータの川野太氏を講師に迎え、「今だからこそできる 中小・小規模事業者のITを活用した儲ける仕組み」をテーマにセミナーを開催した。

冒頭、川野氏は、「補助金ありきでITをいれようか?ではITを導入しないでほしい」と強調した。

今、ビジネスの現場で起こっているIT活用は「クラウドサービス」「予約管理サービス」「売上データ分析」など様々。かつて「勘」に頼っていた経営が「データ活用」で利益を上げる時代に突入している。



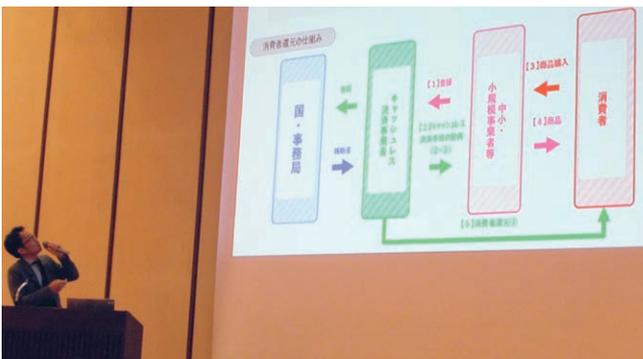
セミナーでは、中小・小規模事業者の方々が、どのようなIT活用で売上UPや顧客獲得、販路開拓に結びつけたのかについて、実際の事例を交えながら紹介した。

当商工会議所では、神戸市産業振興財団と連携し、活用できる補助金制度のご紹介や専門家派遣で、IT導入・利活用のアドバイスを行っております。

「IT活用でどうやって売上を伸ばすのか」「業務効率化の方法は」「どんなツールがあるのか」「コストはどれくらい必要なのか」「IT導入補助金を活用したいけどどうしたらよいのか」などお気軽にご相談ください。

中小企業振興部情報化担当

6.19 『キャッシュレス・消費者還元事業』について説明を聞く



本年10月1日の消費税率引上げに伴い、国は需要平準化対策として、税率引き上げ後9か月間に限り、中小・小規模事業者によるキャッシュレス手段を使ったポイント還元の支援を行う『キャッシュレス・消費者還元事業』を実施する。キャッシュレス決済は、事業者の生産性向上につながるほか、消費者に利便性をもたらすとして国も推奨している。

そこで小売商業部会では、(一社)キャッシュレス推進協議会の松本知之氏を講師に迎え、キャッシュレス決済のメリットや事例紹介、消費者還元事業の対象となる事業者や登録方法などについて説明。

参加者からは、導入に向けた質問が相次ぎ、関心の高さがうかがえた。

中小企業振興部振興チーム

6.19 外食企業5社に対して一挙に商品提案する機会を提供



外食事業を展開する関西圏の企業5社（がんこフードサービス、シンエーフーズ、ポトマック、ユーアールエー、ワールド・ワン）がバイヤー企業としてブースを構え、これらの企業に対して、事前のスケジュール調整なしで参加企業が順番に商品を売り込んでいく“逆見本市形式”の商談会、「販路開拓市～外食編～」を開催した。

食材や加工食品、調味料、飲料などを取り扱う会員企業など31社が参加し、延べ117件の商談が行われた。参加者・バイヤー企業双方から「これまでつながりのなかった企業と商談でき、貴重な機会となった」との感想とともに、ビジネスチャンス拡大への期待の声が聞かれた。

経営支援センター

6.21

段取りよく仕事を進めることは 仕事の質の向上につながる



効率を意識して業務を遂行するスキルを養うため、㈱ワイズコンサルティングの吉田俊也氏を講師に迎え「段取り力強化セミナー」を開催した。

吉田氏は、まず1日や1ヵ月単位で「スケジュールリング」を行うことで、仕事の優先順位や期限などが明確になるだけでなく、それぞれに要する時間が予測でき、作業効率を意識するようになると解説。

また、スケジュールを把握することは、自分だけでなく、組織で成果を出すためにも重要と指摘。例えば、突発的な出来事へも素早く対応でき、結果的に仕事上プラスになると説明した。

参加者からは、「スケジュールを立てるためのヒントや方法は、すぐに活かすことができそう」などの感想が寄せられた。

会員事業部人材開発チーム

6.26

外国人技能実習生受入れの 留意点を学ぶ



国際ビジネス委員会は、人手不足により外国人労働者の受入れへの関心が高まる中、安藤国際法務事務所所長の安藤敏行氏を講師に迎え、「外国人技能実習生の受入れと留意点」をテーマに講演会を開催した。

約7500人の外国人実習生の受入れに携わる安藤氏は、ベトナム人実習生の受入事例を交えながら、制度の概要と受入れの流れ、受入企業に求められる体制などについて解説した。

また、受入れ後のトラブルにも触れ、「外国人実習生受入れでは、日本人従業員の理解促進と指導力向上が不可欠」と強調した。同時に、失踪の少ない監理団体から受け入れるなど、選抜段階からの危機管理の重要性についても語った。

産業部産業・国際チーム

7.25

インバウンド誘客の新たな起爆剤「ナイトタイムエコノミー」の可能性を探る

9月のラグビーワールドカップ2019™をきっかけに、多くのインバウンド客が神戸を訪れることが期待される中、夜の観光「ナイトタイムエコノミー」をテーマにセミナーを開催した。

基調講演には、世界108都市に展開するシティガイド「タイムアウト」の東京版を発刊するORIGINAL Inc.代表取締役の伏谷博之氏が登壇。伏谷氏は、ナイトタイムエコノミーを「まち全体の仕組みを根本から見直し、24時間都市をつくること」と定義づけ、地下鉄やバスの24時間化を進めるロンドンの先進事例を紹介した。また、インバウンド向けに、店舗の夜間営業やイベントなどのコンテ

ントを考える際には、外国人目線を徹底意識することが重要と強調した。

地元の情報提供では、神戸市市民参画推進局国際スポーツ室担当課長の長村博氏が、ラグビーワールドカップ2019™神戸開催に向けた準備状況を説明。続いて、(一財)神戸観光局観光部担当部長の下辻光輝氏より、大会期間中の夜間の来街者おもてなし事業や、夜間営業の飲食情報冊子の発刊などの取り組み予定を紹介した。

セミナー終了後には交流会を開催し、観光に携わる幅広い業種の参加者が集い、活発な情報交換を行った。



地域政策部

平成30年度事業報告と収支決算を承認 第7回（通算第162回）通常議員総会



当商工会議所は、7月31日、第7回（通算第162回）通常議員総会を開催した。正副会頭をはじめ役員・議員70名の出席の下、平成30年度事業報告ならびに収支決算などの議案が審議され、いずれも原案通り可決承認された。

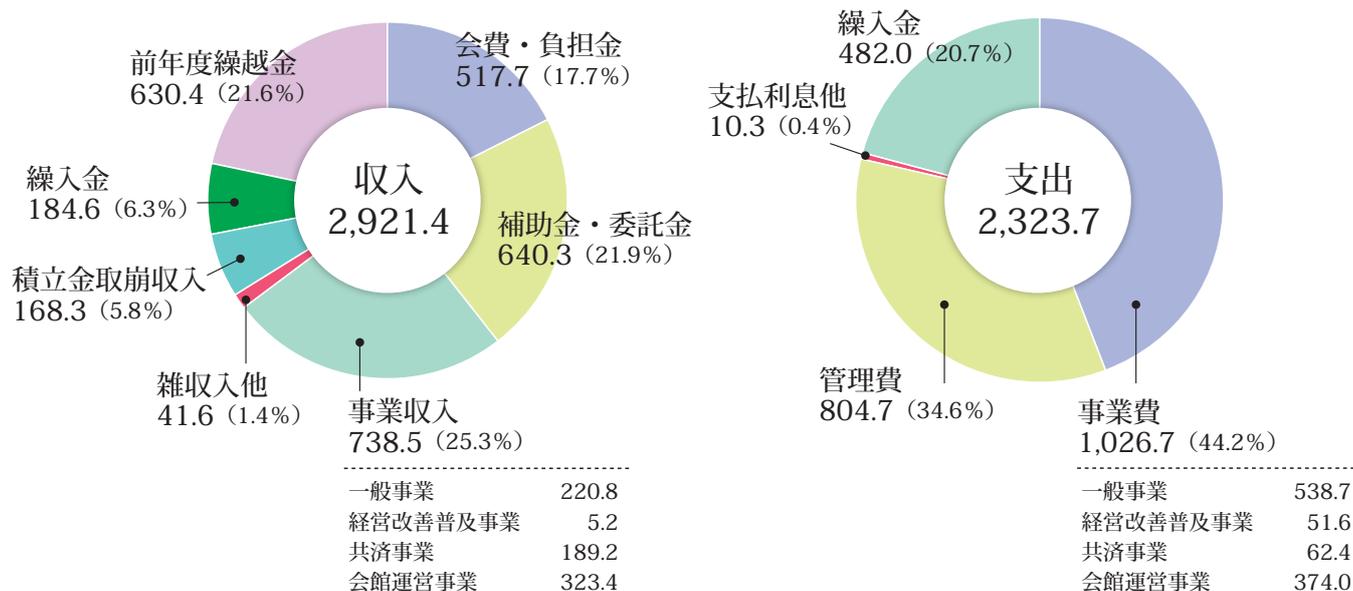
当日の議案および収支決算の概要は次の通り。

議案

- 第1号議案 平成30年度事業報告の件
- 第2号議案 平成30年度収支決算の件
- 第3号議案 定款の一部変更の件

平成30年度 事業会計収支決算

(単位：百万円)



※特定退職金共済掛金保険料（892.0百万円）及び退職給付金（849.4百万円）は除く。

※収支差額597.7百万円は次年度へ繰り越す。

※（ ）は構成割合。端数処理の関係上、各項目の金額と合計が一致しない場合や、構成割合の合計が100%にならない場合がある。